

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	森田 学
主な担当科目	オペラの歴史と作品,音楽芸術運営特別演習②,課題研究Ⅰ,博士研究指導,舞台発声研究(伊語)Ⅱ,ヨーロッパ実技研修(現地イタリア語代替授業)
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	本年度の教育目標は、昨年度に引き続き学生の主体的な学びをいかに導くかである。学生の中には本学が第一志望だった学生もいれば、そうでない学生もいる。また音楽は好きだが勉強に強い抵抗を感じる学生もいる。高校までの習う授業から大学での学びの深さと豊かさを学生が理解し、行動できるように導きたい。授業では各科目で設定した到達目標にどのように向かうか、今どこにいるのかが把握できるような指導を目指す。
2025年の教育に関する自己評価	シラバスに示した内容を踏まえ各回の授業で学ぶことが目標到達までのどのステップにあたるのかを口頭でも説明し、授業内で実施する小テストではどこまで理解できていて、どこから理解できていないかをフォードバックした。通年科目での春学期末と年度末(秋学期末)の試験では、単なる知識の記憶を問うのではなく、学修したことを踏まえ、考えた後に自分の言葉でいかに記述したかを評価できる出題形式にしたことで質的な評価を行った。また、評価基準を示すことで学生の試験に向けた学修にも変化が見られた。次年度も学修効果により確実に繋がる評価について実践していく。
2025年のFD活動に関する自己評価	語学分科会、音楽学分科会、音楽教養分科会、基礎ゼミ分科会といった異なる複数の分科会に参加したことで「多様な背景を持つ学生」について具体的なイメージを持つことができた。合同研修会のグループディスカッションや語学分科会では参加者が発言しやすい雰囲気を作ったり、授業をよりよいものにするための考え方や具体的な改善策を参加者全員で探る研修会に導くことに貢献できた。加えて、新カリキュラムがスタートした本年度においては予期せぬ問題点を分科会で共有し、ケーススタディにつなげるように努めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	授業に出席していても実際にはうわの空だったり、スマートフォンが気になる学生に対して、タスクを個別要素に分けつつ指示を出した。例えば、「今から5分間で問題解決の前提となる非常に重要なことを解説する」「いまのルールを使って基本問題を10問、5分で解く」「基本問題で理解したパターンに、〇〇の要素を加え、応用力を養う問題を5問5分で行う」といった具体的な指示とそれによって養われる力を理解した学修に導いた。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:2924 教員名:森田 学

1)アンケート結果に対する所見

アンケート結果に現れた数値を総合的に読み取ったところ、授業アンケートが自らの学びをより深めるための振り返りであることが教員・学生の側で共有されてきたと思われる。新規で加わった設問が他の設問と連関していることも読み取れた。

授業をうけた学生がどれだけの授業外学修をしているのか、出席だけでなく授業への取り組みに対してどのような意識を持っているのかが具体的な数字で知ることができることは有益であり、数値の意味を読み取る重要性も再認識できた。

2)要望への対応・改善方策

自由記述による要望はなかったものの、聞こえてこない声のなかにも改善のヒントはあると思われる。知識や情報をインプットするといった授業については学生が何をどれだけ勉強すれば学修目標に到達できるのかがイメージしやすいことが結果から読み取れるが、その一方でインプットした知識や情報を用いて自分の考えをアウトプットすることを求める授業では、わかりやすくする工夫がなされていないと感じる学生が一定数いる。しかし、授業を受けて高めることのできた力として実践力や自己表現力があがっていることから、すぐに答えのでない、正誤だけで判断できない問題について学生が真摯に向き合っていると理解した。今後は、正解を早く答えられるのではない、思考を訓練することの重要性、わかりにくい問題に取り組む術を身につける学修の意義についても丁寧に説明していきたい。

3)今後の課題

「わかりやすく」の部分が個人的な印象によるもの、日本語理解に関わる問題なのか教員側がうまく言語化できていないのかといった点については個別のケースにおいて常に改善していく余地があることを認識して授業を実施していきたい。また、「Q5. 自分はこの授業に興味や関心をもって出席している」についても、現時点での学生個人の興味や関心で回答しているのか、カリキュラムに組み込まれた授業について、履修時点では興味や関心がそれほどなかったとしても、興味や関心を持って(自分の専門と関連させて)学ぶことができたかどうかという点にも可能な限り注目して授業内容のさらなる改善をはかりたい。

以 上